

一大飛躍の秋

葛塚町議會議長 中川 精治

明治三十四年十一月に葛塚村、太田古屋村、加山村の一部の三村合併により町制が布かれて五十周年の歳月を閉じました。今回各方面の強力な支援と町民の盛り上げる熱意により、多様な行事を挙げ得たことは私の最も喜びに耐えなるところであります。願ひに町制が布かれて以來常に産業に文化に西部郷七

記念式と祝賀行進

町制五十周年記念式は、縣知事代理の石井總務部長ほか八十餘人の來賓を迎え、十一月十四日葛塚小學校で舉行し、町制功勞者として別記二十二人を表彰しました。この日同時刻に葛塚中學校々庭に集つた全町二千人の児童生徒は、町制五十周年祭の歌をうたつて町内を旗行列行進し、新潟日報社の「ニュースカー」越路號は、のど自慢の歌手を乗せて西部の各村に挨拶廻りをしてくれました。

その夜、行方豫定の提灯行列は雨のため延期し、十六日の夜行いました。新潟交通會社の「ラスバンド」を先頭に、二千に近い灯の流れは、役場

葛塚町五十年史

町長水戸平作(町長七年八月、助役八年十月、議員二十二年三月)

助役中川敬藏(助役一年十一月、議員十六年)

助役小川寛次(助役八年、議員十六年五月)

助役柄澤忠章(助役四年八月、事務吏員八年三月)

助役若月誠太郎(助役一年八月、議員十七年三月)

收入役齋藤徳一郎(收入役九年二月)

議長小黒岩人(議員二十年五月)

議員山田忠太郎(議員十六年五月)

議員菅井謙藏(議員十一年十月)

書記渡邊弘恵(事務吏員二十年三月)

書記吉田要松(事務吏員二十年二月)

現職者

議員坂井信(町長一年十一月、議員十六年九月)

助役石井耕一(助役三年六月、事務吏員十年一月)

收入役川崎吉三(收入役八年五月)

主事佐藤三吉(事務吏員二十三年五月)

書記金子徹也(事務吏員三十七年七月)

書記伊藤長門(事務吏員三十七年七月)

明治三十四年十一月一日 葛塚村、太田古屋村、嘉山村(内沼、大月を除く)合併して葛塚町となる。

葛塚町長事務取扱を命ぜらる。

常盤町にあつた囃鳴館を役場とする。

明治三十五年一月二十日 町會議員選舉。定員十八人

二月八日 市島次太郎町長に就任

三月二十日 町長市島次太郎辭職

五月二日 林徹町長に就任

明治三十七年七月二十九日 役場を下町に移す

明治三十八年一月二十日 町會議員半数改選

五月十四日 町長林徹死亡

六月八日 市島次太郎町長に就任

九月十八日 葛塚町農會創立

明治四十一年一月二十日 町會議員半数改選

明治四十二年三月三十一日 組合立葛塚小學校を廢止

葛塚尋常高等小學校を設置

明治四十四年一月二十日 町會議員半数改選

六月十二日 嘉山前新田排水機竣工

明治四十五年六月六日 新鼻排水機竣工

大正元年九月十六日 電灯點

大正二年六月八日 町長市島次太郎滿期退職

七月二日 大船湯、兩村、法正三村合併

山田己三町長に就任

一月二十日 町會議員選舉

大正五年十一月一日 市内電話開通

大正七年一月二十日 町會議員選舉

大正九年四月一日 府縣道築地葛塚線、葛塚水原線認定

大正十年四月一日 北浦原郡立新發田農學校葛塚分校開校

四月十五日 府縣道葛塚新濁線、葛塚松ヶ崎濱線認定

大正十一年一月二十日 町會議員選舉

三月三十一日 郡制廢止により新發田農學校葛塚分校廢止され葛塚農商補習學校を設置

四月六日 町長山田己三辭職

五月十七日 市島次太郎町長に就任

大正十二年四月一日 府縣道鳥見濱葛塚線認定

六月二十三日 町長市島次太郎死亡

八月一日 山田藤太町長に就任

十月二十三日 町長山田藤太辭任

大正十三年四月八日 山田己三町長に就任

大正十四年四月二十五日 葛塚農商補習學校を葛塚實業農商學校と改稱

大正十五年一月二十日 町會議員選舉

七月一日 新發田警察署葛塚分署が葛塚警察署となる。

昭和四年十一月一日 上水道給水開始

昭和五年一月二十日 町會議員選舉

七月十二日 上水道竣工

十月一日 府縣道天王葛塚線認定

昭和九年一月二十日 町會議員選舉

昭和十年九月十三日 葛塚實業農商學校を廢止、實業學校令による三年制の葛塚農商學校を設置

四月十九日 役場改築竣工

昭和十一年四月三日 町長山田己三滿期退職

昭和十二年三月十日 坂井信町長に就任

昭和十三年一月二十日 町會議員選舉

十二月二十三日 葛塚學區と嘉山學區を合併

昭和十四年一月一日 葛塚尋常高等小學校移轉改築竣工

三月二日 町長坂井信辭職し水戸平作町長に就任

昭和十五年十一月十五日 學區廢止

昭和十七年一月二十日 町會議員選舉

四月一日 葛塚警察署廢止され新發田警察署葛塚派出所となる。

四月三十日 火葬場竣工

昭和十八年九月十九日 内務省告示により葛塚町に都市計畫法適用

昭和十九年五月一日 葛塚町農會を廢止し葛塚町農業者會を組織

昭和二十年四月一日 葛塚農商學校五年制となる。

十一月九日 町長水戸平作辭職

昭和二十二年四月八日 八田健吉町長に就任

四月三十日 町會議員選舉

五月一日 葛塚中學校開校

昭和二十三年三月七日 新發田警察署葛塚派出所派出所設置され葛塚町警察署を設置

六月十五日 新發田商工高等學校葛塚分校(定時制課程)開校

七月二十日 葛塚下土地亀排水機を廢止

八月十五日 葛塚町農業者會を解散し葛塚町農業協同組合を組織

昭和二十四年三月二十日 葛塚農商學校廢止

四月三日 葛塚町公民館開館

昭和二十五年一月二十六日 新鼻排水機廢止

二月六日 早上排水機廢止

町制五十年を祝う

丹羽太郎 葛塚中學校長

昔から人生五十年といわれ、また誰でもその五十年をかえりみるに複雑多様な繪巻物でありました。町の五十年も同様でその思い出を展べひるげると大部の繪巻物になるでしょう。

しかし人は齢五十を數えてから、あめもしよう、こうもしよう、と頭張つても、とかく日暮れて途遠しの感をも、とかく安住の地を探し出たに、この命はいつまでも若々しく元氣に溢れています。五十年祭が単に懐古に終始するものでなく過去現在將來にわたつて総合的な町勢調査と町勢發展の企画に向けられていること

町制五十年の感

葛塚小學校長 五十嵐英次

小生今年五十七才。七才の春のこと父に手を引かれて、あの格子戸のたてられた常盤町の村立尋常小學校へ入學したのが、直ぐ昨日のように思われる。間もなく我等の村が町になり、町立の尋常小學校

交通機關で、長門屋金子屋の二大旅館も繁盛を極め、葛塚の紅燈街も日頃歡樂のさんざめに賑わつていたものだ。それが羽越線の開通により、俄然一轉、用の無い町、陸の島として福島湖畔に瀕り取殘され振るること幾十年。最近町の積極政策によりめきめきと舊態を改めつつあることはこの地に生を受けた者としてこの上ない喜びであり感謝である。

今後は一刻も早く白新線を開通させ、少くとも町の幹線道路くらいは舗装を施し、大新濁の郊外都市として、美しい町、高い文化を有する町、活氣ある産業の町として下越に勇飛させたいものである。

洋品 佐々木洋品店
電話五十一番

塗キペン 看板
屋キペン 齋藤
大口 上